あんだぁれ70

三重混声合唱団あんだぁれ７０通信
２０１９年度　Ｎｏ.１　春～夏号
発行：三重混声合唱団あんだぁれ７０
編集：広報担当　（平井澄、亀井、小泉）
２０１９年６月発行
ホームページ　https://andare70.jp

2019 年度始動！

平成最後の４月 27 日に総会を持ち、令和に改元された６月２日には「新しい時代の始まりに～歌にのせて祈る～」をテーマに単独演奏会を開催し、８年目を迎えたあんだぁれは熱くスタートを切りました。７年間お世話になったピアニストの交代もあり、また新しいスタートの年です。

【馬場先生からのメッセージ】

「8 年めを迎えて、認めてみる…」

改めて先日の単独演奏会、みなさんの舞台にかける情熱がいい形でお客様に伝わり、大変高い評価をいただけたこと、まずはヤッター！！というかんじですね。
本番でのみなさん、素晴らしい笑顔(*^_^*)でした。音楽的な反省は全て馬場の今後の課題としてしっかり受けとめていますので、皆さんは大いに成功の余韻に浸ってください。

今回の演奏会で特に嬉しかったことは二つ！

① 「山に祈る」の作品をみなさんが受け入れてくださったこと(もちろんお客様も)。
② オペレッタのステージで役者になりきって、演技もしてくださったこと(水を得た魚の如く)…でした。

まだまだチャレンジしたいこと沢山ありますので、これからも更にチーム力高めて、この演奏会での素晴らしい経験を糧に、更により良いハーモニーをめざしましょう♬♬

ハーモニーと言えば、やはり過日のラトヴィア放送合唱団の演奏！！圧巻でしたね。お稽古をお休みにして、聴く価値、十二分にありました。うたおにさんも、ヴォクスボーナも練習お休みにしたみたいです(*^_^*)
合唱は沢山の人と声を重ね合わせるのですが、やはり「個」の力を揃えることが、如何に大変でいて、しかも大切だと改めて身の引き締まる想いで聴き入りました。音叉やピッチパイプを駆使して、基音を常に身体に染みこませ、済みきったハーモニーから見事な倍音を響かせてくれました。関西や岐阜、名古屋から沢山の合唱関係者もお越しになり、世界最高峰のアンサンブルに皆さん大満足のようでした。関西の知り合い指揮者も、「ええもん聴かせてもろたわ～」とご満悦でした。
これも三重県文化会館大ホールだからこそ！とも言えるかもしれません。何せ残響は 2.0、もともと新国立劇場として建設予定だった最有力プランが宙に浮き、ご縁あって三重県にやってきたという正真正銘日本を代表する本格的音楽専用ホールなのです！！
馬場はこれまでに「蝶々夫人」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」等のオペラ作品やマーラー交響曲８番(千人の交響曲)、ベートーヴェン「第九」、モーツァルト「戴冠ミサ」のソプラノソリストとして出演してきました。あんだぁれも、いつか県文大ホールで歌える機会があるといいですね👌。さて話がそれました…。
まもなくやってくる 10 周年(2021 年)に向けて、やはり個の力の向上に、もっともっと努めましょう。幸い愛情溢れる手厚いサポートをしてくれるコーチ陣とこの度新たにピアニストとしてお迎えする、星合智美さん、秀平雄二さん…最強の音楽スタッフです。

今年度も益々パワーアップして実りある一年を過ごしましょう。

最後になりましたが、7 年間ほぼ休まずピアニストとして関わってくれた柴山由美さんに心からの感謝と敬意を表したいと思います。しばちゃん、ほんとにありがとう♡

三重混声合唱団あんだぁれ 70 音楽監督・指揮者　馬場浩子

「演奏会」新しい時代の始まりに　～歌にのせて祈る～

オペラのステージにしても、山に祈るにしても、他の合唱団にはない魅力的なステージを発信できたし、歌う側から聴く側まで含めて集中力の高い空間が創り出せて、合唱ファンの方にも、そうでない方にとっても心に残るステージになったと感じました。　　コーチ　山口真

楽しい！

新しい時代の始まりに　コンサートに参加して
令和の始まりをお祝いするように、今回のコンサートがあり、私は平和な時代であることを願って歌いました。「山に祈る」はハミングのところがむつかしく練習を繰り返し、本番では一番心のこもった歌になったと思います。第２ステージは、牧野さんとダニルさんと腕エルさんと腕を組んで舞台へ。嬉しかったですねぇ・・・　　アルト　廣田町子

「これだから合唱はやめられない！！」
私は「山に祈る」が心配でした。前日リハーサル中でも、まだ迷う箇所がありました。ゲネプロでやっと自分の中で消化できる状態になり、本番は不安要素が少なくなり、 ホッとしてどのステージも集中して歌う事ができ、弾けました♪(^^♪楽しくて、楽しくて、あっという間に終演でした。浩子師匠、団の皆さんのお気遣いに、客席で見守って下さった合唱繋がりの皆さん、家族のやさしさに包まれ、とても幸せな瞬間でした。これだから合唱はやめられない!!　　Alto　川合佐知子

あんだぁれ　初めての舞台です、正直不安でいっぱいでした。今回のテーマの「祈り」をどのように自分のものとして受けとり届けるのか・・・？先生から頂いた、プログラムノート～さまざまな祈り～を拝見して、特に第２ステージの、華やかに見えるオペラの舞台の裏側にも多くの苦悩が秘められていたこと、文明進んで便利になった今も世界で起きる様々な出来事を見ると、この～**平穏な日々を願う祈り**～は人類の永遠のテーマなのだと痛感。今までは、「歌うって楽しい！」と、ボーっと歌って　いた私が恥ずかしい。今回のあんだぁれの初舞台で、やっと仲間に入れて頂けたかなって思います。（以前から大きな顔してたよね・・・と言われそうですが）馬場先生はじめ、コーチの先生方、役員の皆さまありがとうございました！　　ソプラノ　平尾玲子

「山に祈る」

中学から高一の夏まで山岳部に入っていたので山の歌は好きだ。山に祈るはダークダックスの歌で知った。21 歳の時、北アルプス槍ヶ岳へ登ったのでこの歌には一層の思い入れがある。

本番では、朗読と共に流れる“親より先に死ぬ不孝”を胸に抱きながら、山への強い思慕を歌声にのせてお客様にお届けできたと自負している。特に、山を憶うは思いを込めて大きな声で歌った。　練習中はなかなか思うように歌えなかったけど、辛抱強く叱咤激励してくれた皆さんの深い愛情に心から感謝申し上げます。

バス　木村哲美

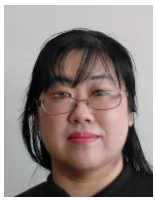
一部　全体によく声が出ていたし、私も気持ちよく唄えました。

二部　楽しそうに唄いながら動くことは、なかなか難しい。アベマリアのアカペラのところは、うまくいかなかった。オペラの間奏曲のようにヴァイオリンがいいと思いました。

三部　重い荷物をしょって苦しみながらやっと登り切ったというところでしょうか。
私の独り言：誠がどんな状態でビバークしたのか唄いながらも気になっていました。
３月だと積雪量も多いし、ちょっとした斜面で雪洞を掘っていれば吹雪も寒さも充分に凌ぐことができたのに、冬山の知識・経験が足りなかったのかなあ・・・　　テノール　打田　晃

半年前から練習が始まったものの全１５曲を暗譜するのに大変苦労をした。　何度も何度も繰り返し練習してこれで大丈夫だと思っても時間の経過とともに何ヵ所かで歌詞が浮かんでこない。我ながら情けなくなる。　試みとして、全曲の歌詞を書き写してみることにした。　そうすると文意、文脈がよく判り、特に「山に祈る」のようなストーリー性のある歌詞は比較的容易に覚えることが出来た。多少の不安を抱えながら本番に臨んだが意外とスムースに歌詞が思い浮かび大過なく全曲を歌いきることが出来た。　上杉鷹山の名言「為せば成る・・・」を実感。

テノール　山本範夫



「初めてのアルト」

思っていた以上に苦戦しました。ソプラノを歌うときとはかなり違う音の取り方や覚え方をしていて、気が付くと、ずいぶん理屈を考えながら歌っているのです。曲の中での役割によって、自分の曲へのアプローチの仕方が変わるということに面白さを感じました。さて、客観的に聴くとどうきこえるのか？演出の効果で舞台はどう見えるのか？DVD の出来上がりが楽しみです。

アルト　永田　智子

緞帳がゆっくりと上がる…鼓動が脈打つのが伝わる。深呼吸をする…口角を上げ、ほほえみの表情を作る…拍手が遠くで聴こえる。心地よい風のマーチの旋律。ワクワクの中、準備してきた演奏会が今、始まる。皆様と舞台（ここ）で呼吸（いき）を合わせることの奇跡。もし、この世に歌が存在しなかったら…あんだぁれを知らなかったら、この瞬間には出逢えなかった。あんだぁれは往く、感動を響かせる未来（あす）へ。一期一会に心より感謝！

バス　ダニエル☆こと氷見幸也

「不思議な合唱団の定期演奏会」

私は、あまり熱心な団員ではないので、反省すべきことは、沢山ありますが、何時の演奏会でも、感じることがあります。それは、どのような経過をたどろうとも、演奏会当日は、会場と一体となって、聞いていただくお客さんに、それなりに、素晴らしい演奏で、感動を与えてしまうことです。このわけが、今回、分かったような気がしました。それは、まさに、７０歳前後の　うれしいこと、悲しいこと等、様々な経験してきたことが、不思議と舞台に反映され、ほぼ同じ年代層の客席と共有できるからではないでしょうか！これからも、このようなお客さんを大事にして、人生経験を滲ませて、会場と一体感のある演奏が出来たらいいなと思いました。　　バス　井上正秀

世界最高峰合唱団
ラトヴィア放送合唱団
（6月6日県文大ホール）

「ラトヴィア放送合唱団の感想」

◇グラスハープと比べると声量はそれほど大きくない。なのに２４人で大ホール全体に行きわたる歌声は驚異である。４声または６声が入り交じり、アマチュアではどこからその声が聞こえてくるのか判別できない。透明なのに幅のある音が靄のように立ち上がって来る。均質で正確な響きは楽器以上である。モウヤヨウムのように、声以外の音や畳みかける不協和音の連続で世界が作られると、作曲家の意欲をかき立てて当然と思われる。　　テノール　穂積致章

音楽ちょっぴり知識

☆ 日本語の「ん」は「Ｎ」なので普通は唇を閉じないが、Ｂ、Ｍ、Ｐの前の「ん」は唇を閉じて「Ｍ」と発音する。例　赤ん坊、新芽、葉っぱ（「言葉は」の歌詞）。（馬場先生のお話より）

☆ 倍音・・振動体の発する音のうち、基音の振動数の整数倍の振動数を持つ部分音（上音）。管や弦の発する楽音では部分音はすべてほぼ倍音となっている。ハーモニックス。（広辞苑より）

【あんだぁれ通信題字デザインについて】

今回も木村さんのご了解のもと、同じデザインを使わせていただきました。

これからもあんだぁれ通信題字に皆さんの作品を取り上げたいと思います。題字デザイン応募してください。

【2019 年度　今後の予定】

○　2019.8.23(金)or24（土）～8.30（金）有志によるバチカン・イタリア特別演奏旅行
○　2019.10.12　（土）第３回クラシック音楽祭２０１９みえ（四日市市文化会館第２ホール）
○　2019.11.10　（日）四日市市合唱祭（四日市市文化会館第１ホール）
○　2020.1.19　（日）アンサンブルコンテスト＆新年会（プラトンホテル）
○　2020.5.31　（日）ジョイントコンサート「歌のトライアングル　パートⅡ」
（四日市市文化会館第２ホール、午後公演）

【団員の動向（前号以降】（敬称略）

入団：バス氷見幸也（再入団）
復団：ソプラノ田中薫
新たに休団：テノール柴田孝之、バス氷見幸也、向山文夫
退団：ソプラノ山中博子、萩原美保、バス大石薫

★歌う仲間がひとりでも増えるように、昨年作成した団員募集チラシを活用してお友だちを誘いましょう！！

【編集後記】今号は馬場先生をはじめ、たくさんの団員の皆様から、素晴らしいコメントを寄せて頂きました。まさに**あんだぁれ**のハーモニーが心を一つにして演奏されるように、新元号の船出にふさわしい新たな息吹を感じさせる会誌になったと感じています。

（編集担当：平井澄子、亀井由美子、小泉義夫記）